

トーキョーワンダーサイト レジデンス 2016-2017

C/Sensor-ed Scape

東京文化プログラム

2017年4月15日(土)～5月28日(日)

トーキョーワンダーサイト本郷

— 世界の街を舞台に滞在制作を行った、国内外のクリエイターたちによる成果発表展

トーキョーワンダーサイト(TWS)では、2006年よりレジデンス・プログラム「クリエイター・イン・レジデンス」を開始し、東京や海外の派遣先を舞台に、アート、映像、音楽、建築など様々なジャンルや国籍のクリエイターたちへ滞在制作の機会を提供しています。本展では、昨年度 TWS から海外各地の提携機関に派遣され、滞在制作を行った8名の日本人クリエイターによる成果発表を紹介します。

■ 展覧会概要

展覧会名：トーキョーワンダーサイト レジデンス 2016-2017

C/Sensor-ed Scape

(英語タイトル：TWS Creator-in-Residence 2015-2016 C/Sensor-ed Scape)

会期：2017年4月15日(土)～5月28日(日)

会場：トーキョーワンダーサイト本郷 (東京都文京区本郷2-4-16)

開館時間：11:00～19:00 (最終入場は30分前まで)

休館日：月曜日

入場料：無料

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト

クリエイター：瀧 健太郎、山田健二、山本高之、大和田 俊、児嶋サコ、丸山美紀、村上華子、持田敦子

提携都市/機関：ベルリン市/クンストラウム・クロイツベルク/ベタニエン(ドイツ・ベルリン)、アトリエ・モンディアル(スイス・バーゼル)、コヤン・アート・スタジオ(韓国・ソウル)、アーツ・イン・レジデンス台北/トレジャーヒル・アーティスト・ヴィレッジ(台湾・台北)、ロンドン芸術大学(イギリス・ロンドン)

ウェブサイト：<http://www.tokyo-ws.org>

■ オープニング・トーク

日時：4月15日(土)15:00～17:00

参加クリエイター：瀧 健太郎、山田健二

※参加クリエイターは変更となる場合がございます。予めご了承ください。

会場：トーキョーワンダーサイト本郷



<お問い合わせ >

〒135-0016 東京都江東区東陽7-3-5 東京都現代美術館リニューアル準備室内

公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト 広報担当：市川、藤井

TEL: 03-5633-6373 / FAX: 03-5633-6374 E-mail: press@tokyo-ws.org

■ 展覧会について

私たちが生活する街並みは大きく変化していないように見えますが、サイバー空間の風景^{scape}の変化は加速度を増しています。街や建造物の至るところに設置された監視カメラ、交通系 IC カードをはじめとする電子マネー、自動販売機、Facebook、Twitter、LINE などの SNS、E-mail、身体セキュリティー認証等、あらゆる人々の行動や身体情報がビッグデータとして蓄積され、情報を得た人々によって利用されています。私たちの周りにある無数の感知器^{sensor}が、自動的に私たちの行動を^{censored}検閲し、時としてその犠牲者^{scapegoat}を生み出しています。私たちは今現在急速に変化している見えない風景を的確に捉え、個々人の行動概念や行動理念を客観的に俯瞰する必要があるのではないのでしょうか。

本展で紹介するクリエイターたちは、海外のレジデンス滞在という共通の経験を経て、現代社会に漂う空気を敏感に感じ取り、それぞれ独自の表現でその成果を発表します。彼らの作品たちは、既存の認識や価値観が真実とは限らないということ、信じることの危うさを、示唆に富んだメッセージで示してくれるでしょう。

瀧健太郎は滞在先のベルリンで、都市空間の地政学的、時流的な「過剰さ」と「空虚さ」をキーワードに、街中で収集した家電ゴミなどで立体作品を制作し、それにベルリンの様子を投影させ、現代都市の構図を表現しました。本展では TWS 本郷の展示空間を生かした映像インスタレーションを発表します。**山田健二**は、滞在制作をしたロンドン芸術大学内の敷地にかつて存在した刑務所を主題に、監視システムのセルフ・ハックを用いて、史跡の逆説的占拠によって歴史の記述者への戦略的アプローチを組織しました。本展では、展示室内にその刑務所遺跡で行った映像占拠の様子を再現します。ソウルに滞在した**山本高之**は、ソウル五輪という遠くない過去の出来事を、どのように民話として捉えるかについてリサーチを進めていた際に、昔を表現する「虎がタバコを吸っていた頃」という言い回しに興味を抱き、虎をテーマにしたインスタレーションを発表します。

その他、**大和田俊**(ベルリン)、**児嶋サコ**(ベルリン)、**丸山美紀**(台北)、**村上華子**(バーゼル)、**持田敦子**(ベルリン)が、それぞれの滞在制作を振り返り、新たに制作した映像作品の上映や、資料展示などを予定しています。

■ クリエータープロフィール

■ 瀧 健太郎 | Kentaro Taki (二国間交流事業プログラム<ベルリン>、2016年7月~9月滞在)

1973年生まれ。1996年武蔵野美術大学大学院映像コース修了。2002年~2003年文化庁新進芸術家海外研修制度、ポーラ美術振興財団在外派遣芸術家としてドイツに滞在、メディアアートを学ぶ。近年の主な展覧会に「再生運動 デジタル世代の反証的技術」(台湾国立美術館、台中、2016)、「ビデオアート・プロムナード in 阿佐ヶ谷」(阿佐ヶ谷駅周辺、東京、2015)、「Les Instant Video2013 : 50 ANS D'ARTS VIDÉO」(フランス、2013)、「TOTAL CITY」(バレンシア現代芸術院、スペイン、2012年)、個展上映に「瀧健太郎ビデオ・コラージュ/パズル」(アップリンク・ファクトリー、東京、2014)など。

■ 山田健二 | Kenji Yamada (二国間交流事業プログラム<ロンドン>、2016年6月~7月滞在)

1983年生まれ。2008年東京藝術大学先端芸術表現科卒業。2016年ポーラ美術振興財団在外派遣芸術家としてイギリスに滞在。近年の主な展覧会に「Smurf remain」(チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ、ロンドン、2016)、「Shanghai Project」(上海喜瑪拉雅美術館、中国、2016)、「BSIM App.」(3331Gallery、東京、2013)、「BSIM」(platform02、大分、2011)など。主な助成に「TERUMO Arts and Crafts Project 研究助成」(2016)、「BEPPU ART AWARD 2011 グランプリ賞」(2011)受賞。東京藝術大学卓越助教、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ客員講師。

■ 山本高之 | Takayuki Yamamoto (二国間交流事業プログラム<ソウル>、2016年5月~7月滞在)

1974年生まれ。2002年チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ、MA in Fine Art 修了。近年の主な個展/グループ展に「物語のかたち」(せんだいメディアテーク、2015)「未見の星座<コンステレーション>—つながり/発見のプラクティス」(東京都現代美術館、2015)、「ゴー・ビトウイーンズ展:こどもを通して見る世界」(森美術館、東京、2015)、「そらいろユートピア」(十和田市現代美術館、青森、2014)、「想像しなおいし」(福岡市美術館、2014)など。

■ 大和田 俊 | Shun Owada (二国間交流事業プログラム<ベルリン>、2016年10月~12月滞在)

1985年生まれ。2011年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。近年の主な展覧会に「マルフォームド・オブジェクト」(山本現代、東京、2017)、「Paleo-Pacific」(TWS 本郷、東京、2016)、「Sound Reasons Festival」(1shantiRoad、バンガロール、インド、2016)、「unearth」(NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、東京、2015)、「パレ・ド・キョート/現実のたてる音」(ARTZONE、京都、2015)、パフォーマンスに「OSMOSIS Audiovisual Media festival」(駁二芸術特区、台湾、2016)がある。

■ 児嶋サコ | Sako Kojima (二国間交流事業プログラム<ベルリン在住>、2016年4月~6月滞在)

1976年生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修士課程修了。2009年から文化庁新進芸術家海外研修制度、吉野石膏芸術振興財団研修制度を受け、ベルリンに滞在。近年の主な展覧会に、「第14回『DOMANI・明日展』」(国立新美術館、東京、2012)、「THEECHO—spreading of light—」(ケルン、2013)、「Orphan and the Old Single」(山本現代、東京、2008)、「The gloaming」(山本現代、東京、2007)など。自らがハムスターになり生活をするパフォーマンス《The reason why I become hamster》ではリトアニアやスコットランドでパフォーマーとして招聘された。

■ 丸山美紀 | Miki Maruyama (二国間交流事業プログラム<台北>、2016年11月~2017年2月滞在)

1973年生まれ。2000年東京工業大学大学院修士課程修了。近年の主な活動に、伝統的な町並みが残る小さな町の空き家を次々に開いていく「美波町空き家活用プロジェクト」(徳島、2014~)や、廃校の什器を地域から得たイメージを用いて展示什器に作り変えた「水と土の芸術祭 2015」メイン会場構成(新潟、2015)、地域の伝統的な民家の形式を再解釈してデザインした「本棟の家」(長野、2014)など。その他、地元の高齢者たちと協働で制作した「Life is creative」展会場構成(兵庫、2015)、「妙蓮寺の家」(神奈川、2012)がある。また世界のスラムエリアに赴き、コミュニティ運営や自力建設方法のリサーチを行うなどの調査活動も行なっている。

■村上華子 | Hanako Murakami (二国間交流事業プログラム<パーゼル>、2016年4月~6月滞在)

1984年生まれ。東京大学文学部卒業後、東京藝術大学映像研究科修士課程修了。その後ベルギー政府奨学生として渡欧し、ポーラ美術振興財団在外派遣芸術家(パリ)、ル・フレノワ: フランス国立現代アートスタジオを経て現在フランスを拠点に活動。近年の主な展覧会に「ANTICAMERA (OF THE EYE) 」(タカ・イシイ・ギャラリー、東京、2016)、「資本空間スリー・ディメンショナル・ロジカル・ピクチャーの彼岸: 村上華子」(gallery αM、東京、2015)、「パノラマ 17」(ル・フレノワ: フランス国立現代アートスタジオ、トゥルコワン、2015)、「日常の実践」(国際芸術センター青森、2011)、「トーキョーストーリー」(TWS 渋谷、2010)、「大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ」(新潟、2009)など。

■持田敦子 | Atsuko Mochida (二国間交流事業プログラム<ベルリン在住>、2017年1月~3月滞在)

1989年生まれ。2013年武蔵野美術大学日本画学科卒業。2014年より東京藝術大学大学院先端芸術表現学科、2015年よりワイマール・バウハウス大学 MFA, Public Art and New Artistic Strategies に在籍。近年の主な展覧会に「IMAGINARY BAUHAUS MUSEUM」(Maxim Gorki Theater、ベルリン、ドイツ、2015)、「Das Glücksprinzip」(旧刑務所、Galerie Eigenheim、ワイマール、ドイツ、2015) など。またアルメニアと東京でのプロジェクト「Universe 69」にてフィールドワークと展示を行った(イェラヌヒ・マリアム・アスラムチアン美術館、ギュムリ、アルメニア、2015 / co-ume lab、東京、2016)。2016年10月よりベルリン、Zentrum für Kunst und Urbanistik に滞在、パフォーマンスの発表を行う。

■ 広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

1



2



3



1: 瀧 健太郎

《逃げ場なし! Kein Ausgang!》2016

写真コラージュ
440mm x 326mm

2: 山田健二

《Smurfed remain》2016

4チャンネルビデオインスタレーション
90分 ©Kenji Yamada

3: 山本高之

《山月記》2017

HDビデオ

C/Sensor-ed Scape

広報用画像申込書

Fax 番号: **03-5633-6374**

Email: **press@tokyo-ws.org**

トーキョーワンダーサイト広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールにてご連絡ください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請し直してください。

※画像は、メールにてデータをお送りします。お手元に届くまでのお時間を2~3日ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像は、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web でのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記などを施してください。

※事前に記事原稿を拝見させていただきますよう、お願いします。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。

< お問い合わせ > ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0016 東京都江東区東陽7-3-5 東京都現代美術館リニューアル準備室内

公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト 広報担当: 市川、藤井

TEL: 03-5633-6373 / FAX: 03-5633-6374 / E-mail: press@tokyo-ws.org